

社会（５年生）

授業者 山崎 雅史

○農産物の主な産地調べ

（近電子チラシ畿地方と関東地方）から農産物と産地を調べて入力する。

集計結果が地図上に色の濃淡で表示される。



○テレビの番組表から考える番組編成

ジャンル別にした色分け。（2019年と1990年の番組表）

個々に振り返りを入力し共有。

理科（３年生）

授業者 池住 祐亮

○太陽とかげの動き

360度カメラを活用



空間的な見方を働かせながら太陽とかげの位置関係を考える。

対話的に学習を進めながら、本時の目標に迫る。



○音の伝わり方と大小

オシロスコープアプリを活用



自分の言葉で説明
身近な教材
音の可視化



授業者 廣町 智栄

国語（１年生）

授業者 鳥袋 光

○個の学びをつなぐ



自身の学習の始めの頃の音読と、終わりの頃の音読を比較し、音読が変わった実感から、学びの過程を振り返る。



電子黒板上で、児童一人ひとりの興味のある一文に線を引き、線の重なりや、文と文のつながりを学習の話題にする。



体育（４年生）

○記録性を生かして



ミニフラッグを使った表現を教材として、お互いの動きを録画し、振り返りに活用することで、自分の動きをふり返ったり、グループごとに動きを共有したりした。（9月研修授業より）

○即時性を生かして

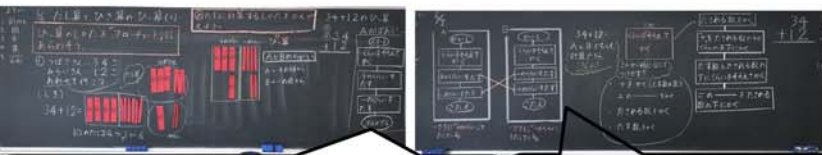


↑タブレット上の画面からの抜粋

ゲーム領域について、作戦を数値化してふり返ることによって、思考・判断・表現の力を高めようとした。また、運動の動画を撮影・編集し、視聴させたことで、目指す動きを理解する有効な手立てとすることができた。（9月研修授業より）

算数（２年生）

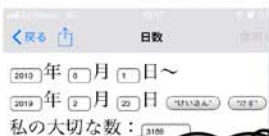
○たし算のひっ算のフローチャートをつくらう（プログラミング的思考への試み）



たし算のひっ算、ただ計算するだけでなく、フローチャートを使って説明する。

フローチャートが二つできたが、どちらのフローチャートが好ましいかな？

○10000までの数「大切な数」から学ぶ（プログラムにふれる）



「大切な数」を元に単元の学習内容を展開

「大切な数」
私が生まれた日から今日までの総日数をさす



JavaScriptで作成した「大切な数計算機」プログラム

本校では本年度より文部科学省の委託事業として「情報教育の推進等に関する調査研究」に取り組むことになった。そこで研究テーマとして「今、求められるよい授業～「主体的・対話的で深い学び」を生み出す具体的手法の提案～」として一年間研究に取り組んできた。

本報告者の5名は本年度より本校に赴任した、いわゆる「同期」である。「同期」の人間が日ごろ支え合い、一年間共に研究してきた成果を報告した。

ICT活用の実践事例として、国語科における児童のまなびの可視化、社会科における「コラボノート」を使った学び合い、算数科におけるプログラミング教育への試み、理科における科学的現象の可視化、体育科におけるボール領域の作戦の数値化を提示してきた。

今回の報告では電子黒板や360度カメラなどの機器・コラボノートなどのアプリ、プログラミング言語をつかいプログラムし教材など、ツールをどのように活用するか提案であったが、ICT活用においては「C (Communication)」の部分、つまり対話的な活動をどのように広げていくかが課題となる。今後われわれは、この「C」の部分に注目し研究を深めていきたいと考える。